**北十八間櫓**

全長40mの北十八間櫓は、本丸の北隅にあった木造平屋建ての鉤形の櫓です。この櫓は江戸時代（1603–1867）初期のもので、高さ20mの石垣の上に建っており、南では東十八間櫓、北では五間櫓とつながっていました。「北にある長さ18間の櫓」（「間」は昔の単位で、およそ1.82mに相当します）を意味するこの名前は、方位を表す干支の動物にちなんで名付けられた他の櫓よりも意味が明快です。2016年の地震では、櫓とその下の石垣の両方が崩壊しました。これらの部材は今、修復と再構築のために保管されています。